

1 単元名 音読げきをしよう

教材名 「お手紙」 アーノルド＝ローベル

2 指導の立場

(1) 単元でつきたい力

本単元の学習を通してつきたい力は以下のものである。

場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読み、声の出し方などを工夫して音読劇をすることができる。

読ア

低学年の児童にとって、声に出して読むことは、内容を理解するために大切な手段の一つである。したがって、本単元では、声の出し方などを工夫して音読をする学習活動を取り入れる。音読をする際の視点として次の点を設定したい。 間の取り方 声の大きさ 読む速さ 声の強弱 動作を付ける。また、工夫をするための留意点として、次の点に気をつけて読ませる。 句読点に気をつけて読む 漢字を間違えずに読む すらすら読む。

この学習を通して、工夫をしながら音読ができるようにしたい。

(2) 単元・題材について

本作品は、「がまくん」と「かえるくん」の行動を中心に、場所や時間の移り変わりはっきりと描かれている。物語の展開に沿って、手紙が来るのを諦めてすねていた「がまくん」の行動がなぜ変わったのか、その行動が生まれた背景にはどんな心情があるのか想像を広げながら読むことができる。また、「かえるくん」の「がまくん」に対する温かな気もちも行動や「だって、ぼくが、きみにお手紙出したんだもの。」という会話を中心に豊かに想像することができる。会話が長いことが「お手紙」という作品の特徴である。この特徴を生かして、役割読みで音読をし、音読劇をする中で、登場人物同士のやり取りをたっぷり楽しませたい。

そして、「お手紙」の本文には、「だって、今、ぼく、お手紙をまっているんだもの。」「でも、来やしないよ。」等、会話文の中に読点が複数ある。句読点に気を付けて読むことは音読の工夫につながる。また、がまくんの「ああ。」という会話文は二度出てくる。一度目の「ああ。」と二度目の「ああ。」ではがまくんの気もちは大きく違う。そのため、場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に豊かに想像しながら読むことができる。と考える。

(3) 言語活動とその特徴

「音読劇」とは、読んだ本や文章の内容を地の文や会話文などに区別しながら台本にまとめ、配役や役割分担をし、体を通して演じることである。解釈や感想を基にし、声の大きさや読む速さ、間の取り方などを工夫して音読することがポイントとなる。聞き手を意識して音読をするため、場面の様子がよく分かるように音読を工夫する必然が生まれる。児童は、読み取った場面の様子を音読記号として台本に書き込む。その台本を基に、音読劇を行う。生き生きと音読する姿を願っている。

【読むこと領域の単元と言語活動の計画】

<p>1学期 ふきのとう スイミー ミリーのすてきなぼうし</p>	<p>【単元のねらい】 「人物」をもとに役に分かれ、語のまとまりや響きに気をつけて音読することができる。 文章の中の大事な言葉や文を書き抜き、それをもとに感想をかくことができる。 お話クイズを作るといった目的をもって本や文章を選んで読むことができる。</p>	<p>【言語活動計画】 音読劇 手紙 読書クイズ</p>
<p>2学期 お手紙 わたしはおねえさん</p>	<p>【単元のねらい】 場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読み、声の出し方などを工夫して音読劇をすることができる。 登場人物の行動を捉えて想像を広げながら読み、自分の経験と結びつけて、感想をもつことができる。</p>	<p>【言語活動計画】 音読劇 本の帯作り</p>
<p>3学期 スーホの白い馬</p>	<p>【単元のねらい】 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができる。</p>	<p>【言語活動計画】 ストーリーテリング</p>

3 研究にかかわって

研究内容1 教材と向き合い、既習事項と比較し、自分の考えをもつことができたか。

(1) 導入時に児童の意欲を引き出し、単元・単位時間の見通しをもたせるための工夫(教材との対話)

単元の導入時に「1年生に『お手紙』の音読劇をみてもらおう」という意識をもたせる。目的意識と相手意識をもって学習を行うことで、音読劇を行う意欲に繋がると考える。また、単位時間内で毎回音読記号を使って音読の工夫を台本に書き込ませる。そして、前時の学習の振り返りで音読記号を基に、音読を行う。登場人物の会話や行動を中心に場面の様子を想像し、音読の工夫を行うという意識をもたせ、どのような工夫をすればよいか明確にしてから読むようにする。

(2) 個の考えをもたせるための課題設定や、考えをつくるための視点を与える工夫(自分との対話)

音読劇を行う必然性をもたせるために、単元を貫く課題を「がまくんとかえるくんのなかのよさが分かる『お手紙』の音読劇を1年生に発表しよう。」とした。また、毎時間、音読の工夫を行うために「場面ごとの『お手紙』の台本を作り、音読劇をしよう。」という単位時間の課題を設定した。単位時間の課題をつくる際に、場面絵を用いて、「がまくん」や「かえるくん」が何をしているところなのか児童に考えさせ、想像を広げやすくしたり、行動に着目させたりする。また、音読の工夫の視点として、間を取る 速さを変える 声の大きさを 変える 声の強さを 変える 動きを付けるという5つの視点を与える。

研究内容2 仲間と共に考えを練り合い、自分の考えを高めることができたか。

(1) 展開時の交流において自分の考えを広げたり、深めたりできるような形態、交流の工夫(仲間との対話)

場面の様子を登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読み、ワークシートに想像した事や音読の工夫を音読記号として書き込む。その後、全体交流で読みを深める。そして、音読記号や動きをグループごとに検討をし、仲間の考えを聞いて自分の台本に加筆したり、修正したりすることで考えを練り合い、音読練習をする。こうすることで、自分の考えを高めることができると考える。

研究内容3 学習内容を確実に理解し、自分の考えを深めることができたか。

(1) 終末時に、自分の考えの変容を振り返り、学びを実感するためのまとめの仕方の工夫(自分との対話)

ワークシートに振り返りの欄を設け、間を取る 速さを変える 声の大きさをを変える 声の強さをを変える 動きを付けるという音読の視点の振り返りを行う。工夫ができた項目のところに をつけるようにする。

4 単元指導計画(全12時間)

時数	ねらい	学習活動	評価規準
1 1	がまくんとかえるくんのなかのよさが分かる『お手紙』の音読劇にするために学習の見通しをもつことができる。	「お手紙」の絵本の読み聞かせを聞く。 音読劇をするための学習計画を立てよう。 初発の感想を書く。 初発の感想を発表する。 音読劇をするための学習計画を立てる。	がまくんとかえるくんのなかのよさが分かる『お手紙』の音読劇にするために学習の見通しをもっている。
単元を貫く課題 がまくんとかえるくんのなかのよさが分かる『お手紙』の音読劇を1年生に発表しよう。 単元を通した言語活動 「場面ごとの『お手紙』の台本を作り、音読劇をしよう。」			
2 2	挿絵を参考に音読することを通して、話のあらすじを理解することができる。	人物のしたこと、言ったことに気を付けて、「お手紙」を読もう。 全文を音読し、登場人物を確認する。 挿絵を基に5つの場面に分け、小見出しをつける。	場面ごとに、がまくんとかえるくんが何をしたのかつかみ、あらすじを理解している。
3 3	会話文と挿絵を照らし合わせながら場面を想像することを通して、誰の会話文が分かり、二人の行動を正しくとらえることができる。	だれが何を言ったのかに気を付けて、「お手紙」を読もう。 登場人物を確認する。 誰の会話文であるかに着目しながら、全文を音読する。 誰の言葉が分かるように、文の頭にシールを貼る。	場面ごとに、がまくんとかえるくんの行動と会話を整理している。
2 4	お手紙が来なくて悲しんでいるがまくんの会話やかえるくんの行動に着目して、場面の様子を想像を広げながら読み、工夫して音読をすることができる。	がまくんとかえるくんが何をしている場面か確認する。 お手紙が来なくて悲しい場面の台本を作り、音読劇をしよう。 一場面を音読する。 お手紙が来なくて悲しいがまくんとかえるくんの様子を想像する 全体交流をする。 グループごとに音読記号や動作を付け、音読の練習をする。 仲間の前で発表する。 本時の振り返りをする。	お手紙が来なくて悲しんでいるがまくんの会話やかえるくんの行動に着目して、場面の様子を想像を広げながら読み、工夫して音読をしている。
5 5	がまくんに手紙を書くかえるくんの行動に着目して、場面の様子を想像を広げながら読み、	前時の振り返りを行う。 がまくんとかえるくんが何をしている場面か確認する。 がまくんにお手紙を書く場面の台本を作り、音読劇をしよう。 二場面を音読する。	がまくんに手紙を書くかえるくんの行動に着目して、場面の様子を想像を広げながら

		工夫して音読をすることができる。	がま君にお手紙を書くかえるくんの様子を想像する。 全体交流をする。 グループごとに音読記号や動作を付け、音読の練習をする。 仲間の前で発表する。 本時の振り返りをする。	読み、工夫して音読をしている。
6		お手紙が来るのを諦めているがまくんと励ますかえるくんの会話や行動に着目して場面の様子を想像を広げながら読み、工夫して音読をすることができる。	前時の振り返りを行う。 がまくんとかえるくんが何をしている場面か確認する。 お手紙をが来るのをあきらめている場面の台本を作り、音読劇をしよう。 三場面を音読する。 お手紙を待つがまくんとかえるくんの様子を想像する。 全体交流をする。 グループごとに音読記号や動作を付け、音読の練習をする。 仲間の前で発表する。 本時の振り返りをする。	お手紙が来るのを諦めているがまくんと励ますかえるくんの会話や行動に着目して、場面の様子を想像を広げながら読み、工夫して音読をしている。
7			本時	
8		幸せな気もちでお手紙を待つがまくんやかえるくんの行動に着目して、場面の様子を想像を広げながら読み、工夫して音読をすることができる。	前時の振り返りを行う。 がまくんとかえるくんが何をしている場面か確認する。 幸せな気もちでお手紙を待つ場面の台本を作り、音読劇をしよう。 五場面を音読する。 幸せな気もちでお手紙を待つ様子を想像する。 全体交流をする。 グループごとに音読記号や動作を付け、音読の練習をする。 仲間の前で発表する。 本時の振り返りをする。	幸せな気もちでお手紙を待つがまくんやかえるくんの行動に着目して、場面の様子を想像を広げながら読み、工夫して音読をしている。
9		二人が、書いてあることが分かっている手紙を長い間待っていたわけを考えて話し合することができる。	前時の振り返りを行う。 がまくんとかえるくんが何をしている場面か確認する。 二人が、長いこと手紙をまっていたのはどうしてか考えよう。 二人が手紙を待っていた理由を考える。 考えた理由を発表する。 発表された理由をまとめ、学習を振り返る。	二人が、書いてあることが分かっている手紙を長い間待っていたわけを考えて話し合っている。
3	10 11 12	今まで学習してきたことを基に、好きな場面を選んで、音読を工夫したり、体の動きを付けたりして、楽しく音読劇をすることができる。	がまくんとかえるくんのなかよしさが分かる『お手紙』音読劇を1年生に発表しよう。 全文を一斉音読する。 場面をグループで分担し、グループ内も役割分担をする。 グループで練習する。 1年生に発表する。 発表を振り返る。	登場人物の様子がよく伝わるように音読の仕方や体の動きなどを考え、楽しく音読劇をしている。

5 本時の展開

(1) 本時のねらい

手紙を書いたことを伝えたかえるくんやそれを聞いたがまくんの様子や会話に着目して、場面の様子を想像を広げながら読み、工夫して音読をすることができる。

(2) 本時の展開

	学習活動	対話を引き出す手だて
導入	<p>前時の振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 代表グループで音読を行う。 <p>がまくんとかえるくんが何をしている場面か確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">手紙を書いたことを聞いた場面の台本を作り、音読劇をしよう。</div> <p>四場面を音読する。</p> <p>手紙を書いたことを聞いたがまくんやかえるくんの様子を想像して、音読記号を付ける。</p>	<p>1 教材との対話</p> <p>前時作った台本を使って音読を行い、間の取り方、声の大きさ、読む速さ、強弱、動作に気を付けて読むことを確認する。</p> <p>がまくんとかえるくんが何をしている場面か、場面絵を用いて確認する。</p> <p>がまくんやかえるくんの様子を想像して音読記号を書く。</p>
展開	<p>全体交流をする</p> <ul style="list-style-type: none"> 「でも、来やしないよ。」と書いてあるから、僕にお手紙なんか来ないよ、と諦めていると思います。だから、小さな声で読む記号を付けました。 「きっと来るよ。」と書いてあるから、かたつむりくんは必ず来てくれるよ。がまくんがお手紙を諦めないように優しく、勇気付けていると思います。だから、大きな強い声で読む記号を付けました。 「だって、ぼくが、きみにお手紙出したんだもの。」と書いてあるから、もう、言っちゃえという様子だと思います。だから、速く読む記号を付けました。 「きみが。」と書いてあるから、かえるくんが手紙を書いてくれてとてもびっくりしたんだと思います。だから、大きな声で読む記号を付けました。 <p>グループごとに音読記号や動作を付け、音読の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「でも、来やしないよ。」は諦めているから、嫌そうな感じで、弱い声で読む。 「きっと来るよ。」勇気付けているから、強い声で読む。 「だって、ぼくが、きみにお手紙出したんだもの。」は「」で間を取って大きな声で読む。 「きみが。」は驚いている。かえるくんの方を見て、大きな声で読む。 「ああ。」は嬉しい様子だから、ゆっくり大きな声で読む。 <p>仲間の前で発表する。</p>	<p>2 仲間との対話</p> <p>間を取る 速さを変える 声の大きさを変える 声の強さを変える 動きを付けるという5つの視点を基に話し合わせる。</p> <p>話し合いの進め方のプリントを基に話し合いを行う。</p>
終末	<p>本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> がまくんの「ああ。」という会話を嬉しい気もちが表れるようにゆっくり大きな声で読みました。 	<p>3 自分との対話</p> <p>音読の視点の振り返りを行い、できたところを付ける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価規準</p> <p>手紙を書いたことを聞いたがまくんやかえるくんの会話や行動に着目して、場面の様子を想像を広げながら読み、工夫して音読をしている。</p> </div>